

講師：西川盛雄氏（熊本大学名誉教授）  
演題：『流浪の民Ⅱケルト民族Ⅱ』

第26期市民講座

年間テーマ『旅する心優しきアイルランドの人々』

ラフカディオ・ハーンの父方のルーツはケルト（アイルランド）の民人であった。この民族のルーツはヨーロッパの臍（へそ）とも言うべき現在のオーストリア、ザルツブルク近郊の山中にあった。そして彼らは此处から西に向かって壮大な旅（移動）に出ていくのである。

ケルトの民は旅する民であった。ボヘミアンとも言われ、貧しくも力強い「流浪の民」であった。途上で出会ったラテン（ローマ）の軍勢に百戦百敗してイベリア半島に逃れ、遂に海を越えて北上し、ブリトン島（現在のイギリス）の周縁部にたどり着いた。現在のスコットランド、ウェールズ、アイルランドである。

旅する民は組織的な戦や国家形成・維持などは苦手であった。しかし芸術を生み出し、これを伝承していく文化力はすぐれていた。この心は詩や歌に託され、絵や踊りを演劇に結実して今日に伝えられている。

ハーンはその血を受け継いでいたと思われる。美しい散文は誌的で、民族の魂が込められた民話や説話や諺などへの愛着は大きかった。私たちの知る『怪談』や『骨董』はこの心から生み出されたものであった。

この市民講座では、熊本に約三年間いたハーンの心に繋がってアイルランドの心を皆様とともに楽しみたいと思います。皆様ぜひお越しください。

講師からひとこと

ウェールズ、スコットランド、コーンウォール、フランスのブルターニュ地方、そしてアイルランド、これらはケルティック・フリンジ（ケルト周縁部）と呼ばれケルト民族の土地であった。彼らのルーツ（故郷）は中央ヨーロッパ、オーストリアのハルシュタット、今のザルツブルグ周辺で、ここは豊かな岩塩地帯であった。

この民族は紀元前6世紀ころから「ケルト民族大移動」を始め、現在のドイツ南部、フランス東部を経てイベリア半島に入り、流浪の民となってローマ略奪の侵略者としておそれられたがやがて高い文化と芸術的資質を持ちながらもついに国家を形成することなく、ヨーロッパの周縁部に追い詰められていく。特にアングロ・サクソン族のイングランドとの確執は近代にいたるまで数々の哀感こもる歴史となってきた。今回の市民講座ではケルトの歴史・文化を辿ることによって私たちの近代（現在）を改めて再考してみたい。

西川盛雄

期日：令和6年6月29日（土）14：00～15：30 参加費：無料

会場：お菓子の香梅帯山店ドゥ・アート・スペース（熊本市中央区帯山7-6-84 国体道路沿い）

次回 7月6日（土）高木朝子（熊本高専熊本キャンパス准教授）「アイルランド妖精の旅」を開催します。

※ご来場は、駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせは熊本アイルランド協会事務局へ

Tel.096-366-5151 Fax.096-372-1857 / Email:office@kumamoto-ireland.org